

皆さんこんにちは。私は東日本の地域担当をしております平野でございます。本日は大変お忙しい中、IBM環境シンポジウム2003に、約300名の皆様にご参加賜りまして誠にありがとうございました。閉会にあたりまして、本日のまとめと、ご参加頂きました皆様、そして講師の方々に感謝の言葉を述べさせていただきます。



21世紀を迎えまして、地球環境保全が、全人類の課題とされておりますが、シンクグローバル、アクト ローカリー、すなわち地球規模で考えまして、行動は現場で行うということが非常に大切だと思っております。

そういう意味で、弊社は今回で4回目になりますが、この環境シンポジウムをグローバルな視点で考えまして、地域での活動との連携を行っていくということが非常に重要だと考えております。

そういう意味で本日は、「夢県土岩手」の創造を掲げ、循環型地域社会形成を推進されております増田岩手県知事にご講演賜りまして本当にありがとうございました。

また葛巻町長様からは、日本一の新エネルギー基地を目指して、というお話をいただきました。

そして、産・官・学の連携ということで、いわて銀河系環境ネットワークの遠藤副会長様より、また企業の取り組みと致しまして、太平洋セメント株式会社の松田常務様から、市民の活動のお話を盛岡消費者友の会の渡辺会長様からご紹介頂きました。

いずれも、環境活動を推進する上で非常に役立ったと思っております。

そして、私どもは全世界の約170ヶ国で企業展開をさせていただいているわけですが、私どもが1960年代から取り組んで参りました環境活動のご紹介をさせていただき、企業と致しまして循環型社会形成をどう行っていくのか、また企業の社会的責任をどう果たしているのかという、いわゆるCSRの取り組みをご説明させていただきました。

今ほどは、パネルディスカッションと致しまして、昨年に引き続きまして國部先生にコーディネーターをお願いしたわけですが、企業、それから行政、学界、市民が協同して環境に取り組むとうとテーマで議論頂きましたことは、ご参加の皆様がこれからの環境活動を推進するにあたりまして、貴重な示唆になったのではないかと考えております。

私ども日本IBMでは「社会とともに」をスローガンとしておりますが、環境の取り組みにつきましても社会の要望に応えるとともに継続して取り組むことが大切だと考えております。

そういう意味で2000年から行っておりますこの環境シンポジウムは末永く来年、再来年も続けて行きたいと考えております。

最後になりますが、今回盛岡市で開催するにあたりまして、岩手県の皆様方、そして環境省の方々には大変お世話になりました。この席をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

また本日は長時間に渡りましてご参加賜りまして誠にありがとうございました。

以上を持ちまして私のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。